Operation Guide 2696/2832B

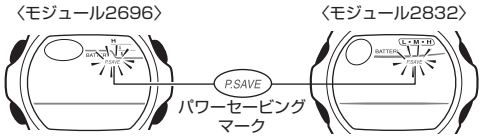
CASIO

パワーセービング機能について

パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。
※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

●スリープ状態になるには

- 表示スリープ
  午後10時～午前6時の間、暗いところで本機を約1時間放置します。
  ➡液晶表示が消え、パワーセービングマークが点滅します。
  アラーム・時報の報音は行ないます。
  ※ ストップウオッチモードのときは、スリープ状態になりません。



※ モジュール番号は時計本体裏面に刻印されています。

- 機能スリープ
  表示スリープのまま暗いところで6～7日間経過します。
  ➡パワーセービングマークが点滅から点灯にかわります。
  アラーム・時報の報音は行ないません。
  電波の自動受信は行ないません。
  ※ 時計機能は正常に作動しています。

●スリープ状態を解除するには

本機を明るいところに置くか、いずれかのボタンを押すか、オートライト（「●文字板を発光させる」）のように傾けたりします。
※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに最大2秒かかる場合があります。

●パワーセービング機能のON／OFF

パワーセービング機能を働かせなくするには「■セット内容」をご覧になり、パワーセービング機能をOFFにしてください。

- パワーセービング機能は、長期保管するときにお使いいただく機能です。
- 時刻モードのワールドタイム表示（「操作のしくみと表示の見方」参照）はスリープ中、節電のため停止します。
  スリープ解除後は停止した時刻から表示を始めますので、ワールドタイムモードに一度切り替えてからご使用ください。
  なお、パワーセービング機能をOFFにしてご使用の場合は停止しません。

操作のしくみと表示の見方

※機種により形状は異なります。
※表示例はモジュール2832を使用しています（モジュール番号は時計本体裏面に刻印されています）。

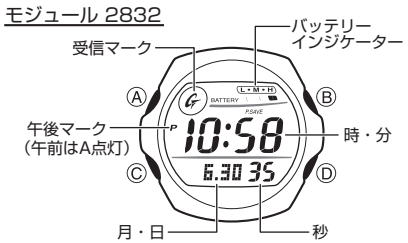
Ⓒ ボタンを押すごとに確認音が鳴り、以下の順でモードが切り替わります。

時刻モード

モジュール 2696



モジュール 2832

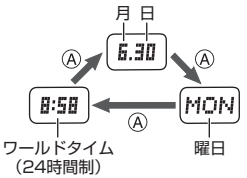


★曜日の見方

SUN：日　MON：月　TUE：火　WED：水
THU：木　FRI：金　SAT：土

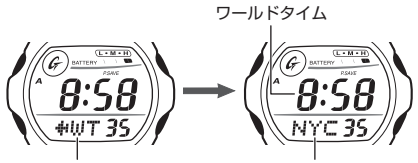
★表示切替について

時刻モードのとき、Ⓐボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わります。
※ワールドタイムはワールドタイムモードで選んでいる都市の時刻を24時間制で表示します。



＊バッテリーインジケーターの見方については「●バッテリーインジケーターの見方」、受信マークの見方については「●受信マーク」参照。

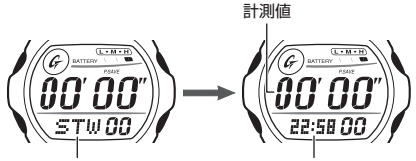
ワールドタイムモード



アラームモード



ストップウオッチモード



※アラームモードのまま2～3分間すると、自動的に時刻モードに戻ります。
※ストップウオッチモードで表示される現在時刻は、常に24時間制で表示されます。

電源について

本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。
光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。
安定してご使用いただくために、なるべく光が当たるようにしてお使いください。

二次電池が消耗して時計機能が停止すると(レベル4)、メモリーされているデータや設定は消去されます。

●リカバーマークが点滅している場合

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、リカバーマークが点滅して、一時的に以下の操作ができなくなります。

- EL バックライトの点灯
- アラーム・時報などの報音
- 電波受信



この場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。

●バッテリーインジケーターの見方

	2696	2832	
レベル1	H M L	L・M・H	すべての機能が使用可能
レベル2	H M L	L・M・H	すべての機能が使用可能
レベル3	H M L CHARGE	L・M・H CHARGE	液晶表示不可、EL点灯不可、アラーム・時報などの報音不可、電波受信不可
レベル4	(消灯)	(消灯)	時計発振不可(時計機能停止)

※「2696」、「2832」はモジュール番号です。
※直射日光下などの強い光で充電した場合、バッテリーインジケーターが一時的に実際の電池容量より高いレベルを表示することがあります。レベルは充電後しばらくしてから確認してください。
※レベル4になっても再度充電を行なうことで使用できます。
※レベル４から充電したときは、レベル３になると表示が点灯しますので、時刻・カレンダーを合わせてください。ただし、レベル２またはレベル１になるまで十分に光を当ててから、ご使用ください。

●充電必要サイン

レベル3の状態は、電池残量が極端に少なくなっています。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。

●充電時のご注意

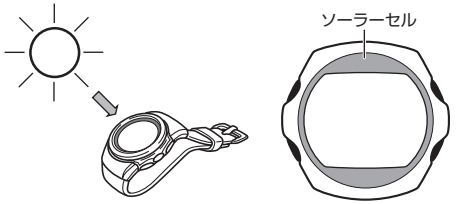
以下のような高温下での充電はお避けください。
●炎天下に駐車中の車のダッシュボードの上
●白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
●直射日光が長く当たって、高温になる所
なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなることがありますが、温度が下がれば正常に戻ります。

充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようにご注意ください。

●充電のしかた

本機のソーラーセル部を光源に向けます。
※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますのでご注意ください。

例）時計の置き方



※イラストは樹脂バンドの場合です。

●充電の目安

本機は一度フル充電すると、充電しなくても基本動作に加え、下記の条件で使用した場合に約9ヶ月動き続けます。

1日あたりの使用量
- ライト：約 1.5 秒間
- アラーム報音:約10秒間
- 電波受信：3 回
- 表示点灯：18 時間

なお、こまめに充電を行なえば、安定してご使用いただけます。

〈1日動くのに必要な充電時間〉
※左記の条件で使用した場合。

環境（照度）	充電時間
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約6分
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約30分
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約48分
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約8時間

* 基本動作とは、時計内部の時刻演算処理のことです。

- 各レベルに回復するための充電時間

環境（照度）	充電時間 レベル4 ➡ レベル3	レベル3 ➡ レベル2	レベル2 ➡ レベル1
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約2時間	約24時間	約7時間
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約6時間	約118時間	約33時間
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約8時間	― ― ―	― ― ―
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約89時間	― ― ―	― ― ―

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

表示照明用 EL バックライトについて

本機の表示部には EL パネル（エレクトロルミネッセンスパネル）が内蔵されており、暗いときに表示を明るくして見ることができます。また、時計を傾けると暗いときに文字板が発光するオートライト機能もあります。

■ ボタンを押して発光させる
～手動発光～

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも、

Ⓑ ボタンを押します

➡ Ⓑ ボタンを押すと約 1.5 秒間文字板が発光します。



※オートライトOFFのときもⒷボタンを押すと発光します。

本機を振ると「カラカラ」と音がすることがあります。これはオートライト機能のためのスイッチ（金属球）が内部で動くための音で、故障ではありません。

■ 時計を傾けて発光させる
～オートライト機能～

オートライトは、ボタンを押さなくても暗いときに時計を傾けるだけで文字板が発光する便利なフルオートライト機能です。
※明るいときは、自動発光しません。
暗い場所で時刻などを見るときに大変便利です。
オートライト機能では、どのモードのときでも、時計を傾けるだけで文字板が約 1.5 秒間発光します。

準備：セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも、Ⓑ ボタンを約２秒間押し続けて、オートライト ON（オートライト ON マーク点灯）にします。



オートライトONマーク

※オートライトONのとき、Ⓑ ボタンを約２秒間押し続けるとオートライトOFF（オートライトONマーク消灯）に戻ります。

●文字板を発光させる



※オートライト機能を使用するときは、時計を「手首の外側」にくるようにつけてください。
※文字板の左右（3時－9時方向）の角度を± 15°以内にしておいてください。15°以上傾いていると発光しにくくなります。



〈EL 発光についてのご注意〉

- 直射日光下では発光が見えにくくなります。
- 発光中に Ⓑ ボタン以外のいずれかのボタンを押したり、アラームなどが鳴り出すと発光を中断します。
- 発光中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これはELパネルが点灯する際の振動音であり、異常ではありません。

〈オートライトご使用時の注意〉

- オートライトを頻繁に使用すると電池の持続時間が短くなりますのでご注意ください。
- 時計が服の袖に隠れるようにつけると、明るいときでもオートライトが点灯することがあります。
- 時計を傾けたとき、文字板の発光が一瞬遅れることがありますが異常ではありません。
- 文字板発光後、時計を傾けたままにしておいても、発光は約 1.5 秒間のみとなります。
- 時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕を上にあげたりしても発光することがあります。**オートライトを使用しないときは必ずOFF**にしておいてください。

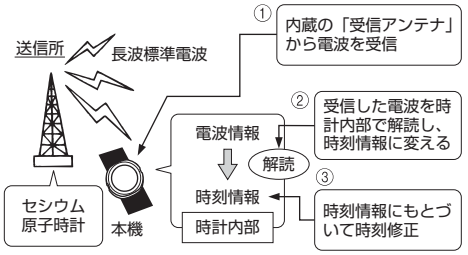
※時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトを OFF にしてご使用ください。

- 静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、発光しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けなおしてみてください。なお、それでも発光しにくいときは、腕を下からふりあげてみると発光しやすくなります。

電波時計について

■ 電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に１秒未満のズレが生じます。

■ 標準電波

- 日本の標準電波（JJY）は独立行政法人通信総合研究所（CRL）が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所（60kHz）」から送信されています。
- アメリカの標準電波（WWVB）はNational Institute of Standards and Technology（NIST）が運用しており、コロラド州のFort Collinsから送信されています。

この標準電波は、ほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることもあります。

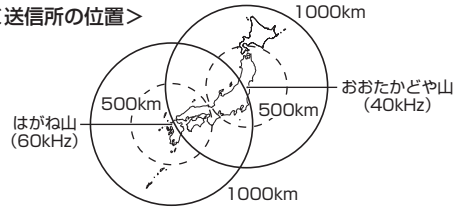
■ 電波の受信範囲の目安

本機は、ホームタイム都市を下記のように設定すると日本の標準電波（JJY）またはアメリカの標準電波（WWVB）を受信することができます。（ホームタイム都市の設定により受信する電波は異なります）

* ホームタイム都市の設定については「●ホームタイム都市の設定」参照。都市コードについては「■ワールドタイム都市一覧表」参照。

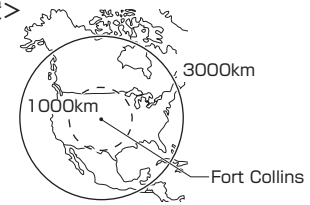
ホームタイム都市	受信電波
TYO	「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」または「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波を受信します。
LAX、DEN、CHI、NYC	コロラド州のFort Collinsからの電波を受信します。

＜送信所の位置＞



- 条件の良いときは、送信所からおよそ1,000km離れた場所でも受信することができます。
  ※ただし、約500kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

＜送信所の位置＞



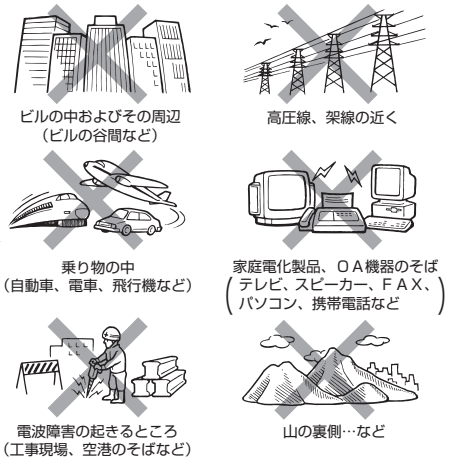
- 条件の良いときは、送信所からおよそ3,000km離れた場所でも受信することができます。
  ※ただし、約1,000kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

※受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼･夜）などによって受信できないことがあります。
※電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。

■ 使用場所について

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。



受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

■ 受信方法について

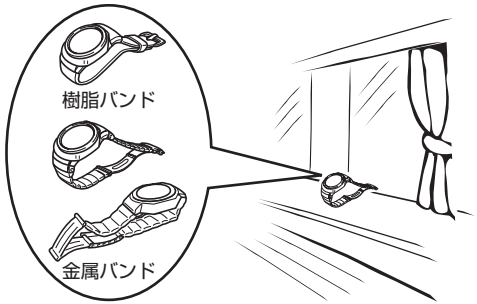
受信方法には、以下の２種類があります。

1 **自動受信（午前 12・2・4 時に自動受信します）**
2 **手動受信（ボタンを押して手動受信します）**

※自動受信が一度も成功しなかった場合にのみ午前5時に受信を行ないます。
※工場出荷時には、自動受信を行なうようにセットされていますので、電波を受けるのに適した環境であれば、自動的に受信を行ない、正確な時刻を保ちます。

●受信しやすくするために

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部（12時位置のアンテナ）を外に向けて窓際に置いてください。



- 時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。
- 受信中、時計本体を動かさないようにしてください。

●受信時間は？

受信時間はおよそ２～６分です。

※ただし、受信電波の設定で「FREQ.A（自動選局）」を選んでいるときは、周波数を選択するため、最大12分かかる場合があります。

* 受信電波の設定については「●受信電波の設定」参照。

●手動受信のしかた

時刻モードのとき

Ⓓ ボタンを約２秒間押し続けます

➡確認音が鳴り、受信を開始します。受信中は受信マーク“G”が変化します。



★受信を中止するときは

Ⓓ ボタンを押します

※受信中は Ⓓ ボタン以外の操作はできません。

★受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正後、確認音の報音とともに修正日時を表示します。

※受信マーク“G”が点灯します。
（受信マークは毎日、午前３時に消えます）

★受信が失敗すると（ERR 表示）

時刻修正は行なわれず、“ERR”を表示します。

※何も操作をしないと、１～２分後時刻モードに戻ります。

●受信マーク

受信中は受信状態によって受信マークが変化します。
安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。





※受信しやすい場所でも、安定するまで約 10 秒ほどかかります。

- 受信マークは、受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。
- 天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

●受信日時の確認

時刻モードのとき

Ⓓ ボタンを押します



➡受信により最後に修正した月日と時分を表示します。

※時刻表示に戻すには、もう一度Ⓓ ボタンを押します。

※何も操作をしないと、1～2分後時刻モードに戻ります。

■ご注意■

●本機は「時・分・秒」と「年・月・日」の情報を受信しますが、電波状況により、「時・分・秒」のみ受信する場合があります。

●"G" マークは「時・分・秒」と「年・月・日」の情報を両方受信したときに点灯します。「時・分・秒」のみ受信したときは点灯しません。



「時・分・秒」「年・月・日」を受信	G 点灯する
「時・分・秒」のみ受信	G 点灯しない

●「時・分・秒」のみ受信した場合、受信日時の確認で表示される月日は、受信時に時刻モードで表示していた月日となります。

■電波受信に関する設定

●ホームタイム都市の設定
お使いになる地域（都市）に合わせて設定します。

●サマータイムの設定
サマータイム（夏時間）の実施に合わせて設定します。

●自動受信の設定
電波受信を行なうかを設定します。

●受信電波の設定
受信する電波を設定します。

※自動受信の設定はホームタイム都市がTYO、LAX、DEN、CHI、NYCに設定されている場合のみできます。

※受信電波の設定はホームタイム都市がTYOに設定されている場合のみできます。

なお、本機は工場出荷時に以下の内容でセットされていますので、日本でお使いの場合は、セットし直す必要はありません。

※電波受信がうまくできないときや受信できても時刻が合わない場合は、設定を確認してください。

ホームタイム都市	TYO	東京
サマータイム	DST A	電波受信による自動切り替え
自動受信	AUTO On	ON
受信電波	FREQ.A	日本の標準電波（40kHz/60kHz）を自動選局

●ホームタイム都市の設定

ホームタイム都市を下記に設定した場合のみ、電波受信ができます。

※日本でお使いのときは、ホームタイム都市を「TYO（東京）」に設定してください。

ホームタイム都市	受信電波
TYO	「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」または「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波を受信します。
LAX、DEN、CHI、NYC	コロラド州のFort Collinsからの電波を受信します。

1.セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約２秒間押します

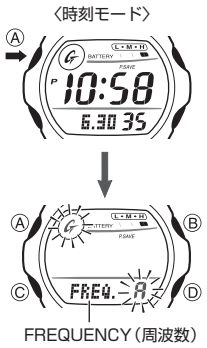
➡ピッと電子音が鳴り、受信電波の設定になります。

Ⓐ ボタン
・セット状態／セット解除

Ⓑ ボタン
・点滅箇所を戻す

Ⓒ ボタン
・設定箇所の選択

Ⓓ ボタン
・点滅箇所を進める



FREQUENCY（周波数）

2.「ホームタイム都市設定」に切り替える

Ⓒ ボタンを１回押します

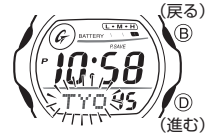
➡都市コードが点滅します。
例）TYO（東京）



3.都市コードを選ぶ

Ⓓ またはⒷ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに都市コードが進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻りますので、お使いになる都市（地域）を選びます。



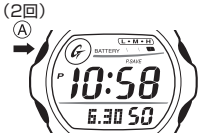
※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも押し続けると早送りができます。

※ 都市コードについては、「■ワールドタイム都市一覧表」をご覧ください。

4.セットを終わる

Ⓐ ボタンを２回押します

➡点滅が止まり、時刻モードの表示に戻ります。



※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

●サマータイムの設定

※日本でお使いのときは、サマータイムを「DST A（オート）」に設定することをお勧めします。

1.セット状態にする

時刻モードのとき

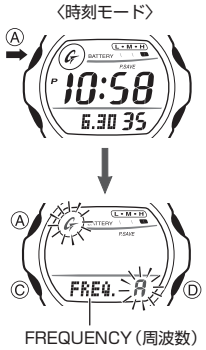
Ⓐ ボタンを約２秒間押します

➡ピッと電子音が鳴り、受信電波の設定になります。

Ⓐ ボタン
・セット状態／セット解除

Ⓒ ボタン
・設定箇所の選択

Ⓓ ボタン
・点滅箇所を切り替える

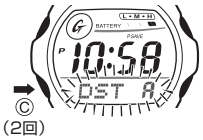


FREQUENCY（周波数）

2.「サマータイム設定」に切り替える

Ⓒ ボタンを２回押します

➡「DST」と設定内容が点滅します。
例）DST A（オート）



3.設定を選ぶ

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに以下の順で切り替わります。

※ サマータイムがON（DST On）のときは、1時間進みます。



DST A ➡ DST OF ➡ DST On

●DST A
電波受信により、自動的にサマータイムのON／OFFが切り替わります。
※ホームタイム都市がTYOのときは日本のサマータイム情報に、NYC、CHI、DEN、LAXのときはアメリカのサマータイム情報に合わせます。
※自動切り替えの設定はホームタイム都市がTYO、LAX、DEN、CHI、NYCに設定されている場合のみできます。

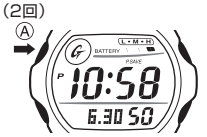
●DST OF
サマータイムはOFFになります。（通常時間）

●DST On
サマータイムはONになり、通常時刻より1時間進みます。（夏時間）
※DST マークが点灯します。

4.セットを終わる

Ⓐ ボタンを２回押します

➡点滅が止まり、時刻モードの表示に戻ります。



※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。
サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

●自動受信の設定

ホームタイム都市を TYO、LAX、DEN、CHI、NYC に設定した場合のみ、自動受信の設定ができます。
※日本でお使いのときは、自動受信を「AUTO On（オン）」に設定することをお勧めします。

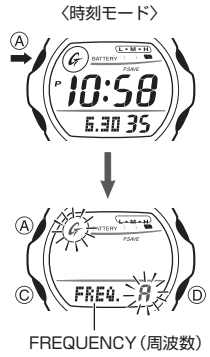
1.セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約２秒間押します

➡ピッと電子音が鳴り、受信電波の設定になります。

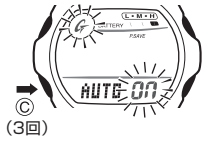
Ⓐ ボタン
・セット状態／セット解除
Ⓒ ボタン
・設定箇所の選択
Ⓓ ボタン
・点滅箇所を切り替える



2.「自動受信設定」にする

Ⓒボタンを3回押します

➡「AUTO」と表示され、設定内容が点滅します。
例）AUTO On（オン）



3.ON／OFF を切り替える

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとにON(AUTO On)とOFF(AUTO OF)が切り替わります。

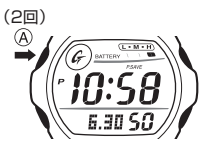
※ ホームタイム都市がTYO、LAX、DEN、CHI、NYC以外のときは、「－－」と表示されて切り替えができません。



4.セットを終わる

Ⓐボタンを2回押します

➡点滅が止まり、時刻モードの表示に戻ります。



※ 点滅表示のまま２～３分間すると、自動的に点滅が止まります。

●受信電波の設定

ホームタイム都市を TYO に設定した場合のみ、受信電波の設定ができます。
※日本でお使いのときは、受信電波を「FREQ. A（自動選局）」に設定することをお勧めします。

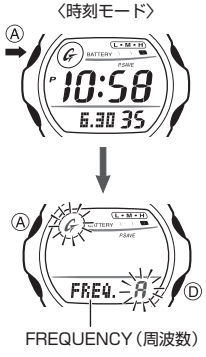
1.セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約２秒間押します

➡ピッと電子音が鳴り、受信電波の設定になります。

Ⓐ ボタン
・セット状態／セット解除
Ⓓ ボタン
・点滅箇所を切り替える

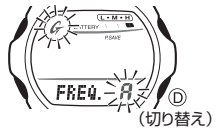


2.受信する電波を選ぶ

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに以下の順で切り替わります。

※ ホームタイム都市が TYO 以外のときは、「－－」と表示されて切り替えができません。



FREQ.A ➡ FREQ.40 ➡ FREQ.60

●FREQ.A 「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」と「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます（自動選局）。 ※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。
●FREQ.40 「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」からの電波のみを受信します。
●FREQ.60 「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波のみを受信します。

3.セットを終わる

Ⓐ ボタンを２回押します

➡点滅が止まり、時刻モードの表示に戻ります。



※ 点滅表示のまま２～３分間すると、自動的に点滅が止まります。

■受信に関するご注意

- ●自動受信は時刻モードとワールドタイムモードでのみ行なわれます。
- ●自動受信中にボタン操作を行なうと、確認音が鳴り、受信を中断します。
- ●受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。
  ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによってうまく受信できないことがあります。
- ●電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。
- ●本機は日本およびアメリカで送信されている電波に合わせて設定されていますので、電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。
- ●電波受信を行なわないときは、平均月差±15秒以内の精度範囲で動きます。
- ●極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。
- ●受信中にアラームが鳴ると、受信を中断します。
- ●本機のカレンダー機能は2099年までですので、2100年以降は受信してもエラーとなります。

■こんなときには

1. 電波が受信できません。

- ●電波の送信が中断していませんか。
  電波時計が利用している標準電波（JJY）は、独立行政法人通信総合研究所（CRL）により運営されておりますが、保守作業や雷対策等で一時的に送信が中断されることがあります。
- ●電波が受信できない地域にいませんか。
  電波受信ができる地域は、「■電波の受信範囲の目安」をご覧ください。
- ●電波受信環境が悪い場所にいませんか。
  電波受信できる地域であっても電波が遮断されたり、発生するノイズにより受信しにくくなります。受信はこのような場所を避けて行なってください。（「■使用場所について」参照）
- ●ホームタイム都市が間違って設定されていませんか。
  ホームタイム都市の設定が日本（TYO）、ニューヨーク（NYC）、シカゴ（CHI）、デンバー（DEN）、ロサンゼルス（LAX）以外の場合は、電波受信を行ないません。「●ホームタイム都市の設定」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。
- ●自動受信設定が OFF になっていませんか。
  「●自動受信の設定」をご覧になり、自動受信設定を ON に設定してください。
- ●自動受信を行なう時間帯（午前12・2・4時および5時）に、時刻モードまたはワールドタイムモード以外になっていませんでしたか。
  自動受信は時刻モードまたはワールドタイムモードでしか行なわれませんので、自動受信時間帯は他のモードに切り替えないでください。

2. 電波を受信したのに、時報と時計の表示が若干ずれています。

- ●電波時計は標準電波を受信して時刻修正を行ないますが、時計内部の演算処理等により若干（1秒未満）のずれが発生します。

3. 電波を受信したのに、時刻がちょうど1時間進んでいます。

- ●サマータイムの設定が ON になっていませんか。「●サマータイムの設定」をご覧になり、サマータイムの設定を OFF にしてください。

4. 電波を受信したのに、時刻がくるっています。

- ●ホームタイム都市の設定が日本（TYO）ではなく、外国都市に設定されていませんか。「●ホームタイム都市の設定」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

5. 自動受信設定をONにしているのに受信マーク“”が表示されません。

●受信マークは受信が成功し、時刻修正が行なわれた場合に表示しますので、一日に一度も受信に成功していない場合は表示されません（毎日午前３時にマークが消えます）。自動受信時間帯に電波の届く場所で使用しているか、また時刻モードまたはワールドタイムモードになっているかを確認してください。

6. 自動受信の切り替えのときにON(AUTO On)またはOFF(AUTO OF)が表示されません。

●ホームタイム都市の設定が日本（TYO）、ニューヨーク（NYC）、シカゴ（CHI）、デンバー（DEN）、ロサンゼルス（LAX）以外の場合は、ON（AUTO On）またはOFF（AUTO OF）は表示されません。「●ホームタイム都市の設定」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

7. 受信電波の選択でAまたは40、60が表示されません。

●ホームタイム都市の設定が日本（TYO）以外の場合は、Aまたは40、60が表示されません。「●ホームタイム都市の設定」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

8. 自動受信は何時頃行なわれるのですか。

●自動受信は電波状況の良い夜間に行なわれます。夜間にお休みのときは、電波送信所方向の窓際に時計の12時位置（受信アンテナ部）を外に向けて置いてください。

9. 手動受信のしかたは？

●時刻モードのときにⒹボタン（右下）を約２秒間押し続けます。“ピッ”と確認音が鳴って手動受信が開始されますので、電波送信所方向の窓際に時計の12時位置（受信アンテナ部）を外に向けて置いてください。

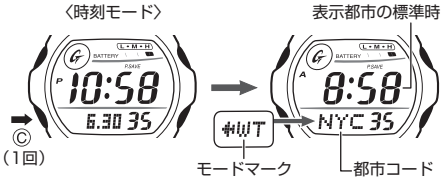
10. 受信日時の確認のしかたは？

●時刻モードのときにⒹボタン（右下）を１回押します。電波受信が成功して、時刻修正された日時が表示されます。時刻モードに戻すには、もう一度Ⓓボタンを１回押します。

ワールドタイムの使い方　Ⓒボタンを押して、ワールドタイムモードにします。

ワールドタイムモードでは、世界30都市（29タイムゾーン）の時刻を簡単に知ることができます。

ワールドタイムモードに切り替えると、前回このモードで最後に見た都市の時刻を表示します。



※ワールドタイムは、時刻モードでホームタイム時刻と都市コードをセットすると、時差にしたがい他の都市の時刻を表示します。
※ワールドタイムの「秒」はホームタイムの「秒」に連動しています。

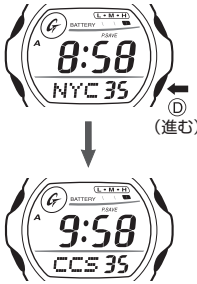
選んだ都市の標準時が違っているときは、時刻モードの時刻およびホームタイム都市設定を確認し、違っているときは正しくセットしてください。
※ホームタイム都市のセットについては「●ホームタイム都市の設定」をご覧ください。

■都市のサーチ

ワールドタイムモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに都市コードが進みます。
※押し続けると早送りができます。
※表示される順番は、「■ワールドタイム都市一覧表」をご覧ください。



Ⓓ ボタン
・都市コードを進める

■サマータイムの設定／解除

サマータイムは各都市ごとに設定できます。

1.都市を選ぶ

ワールドタイムモードのとき

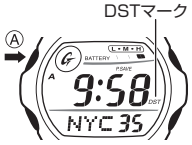
Ⓓ ボタンを押します



➡Ⓓ ボタンを押すごとに都市コードが進みます。
※ 押し続けると早送りができます。

2.設定または解除する

Ⓐ ボタンを約１秒間押し続けます



➡設定のときはDSTマークが点灯します。
解除のときはDSTマークが消えます。
※ 設定または解除したときに、“ピッ”と確認音が鳴ります。

Ⓐ ボタンを押し続ける
・DSTの設定／解除

サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻から１時間進める夏時間制度のことです。
サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

■ワールドタイム都市一覧表

コード	都市名	時差
―――		–11
HNL	ホノルル	–10
ANC	アンカレジ	–9
LAX	ロサンゼルス	–8
DEN	デンバー	–7
CHI	シカゴ	–6
NYC	ニューヨーク	–5
CCS	カラカス	–4
RIO	リオデジャネイロ	–3
―――		–2
―――		–1
GMT	<グリニッジ標準時>	+0
LON	ロンドン	+0
PAR	パリ	+1
BER	ベルリン	+1
ATH	アテネ	+2
CAI	カイロ	+2

コード	都市名	時差
JRS	エルサレム	+2
JED	ジェッダ	+3
THR	テヘラン	+3.5
DXB	ドバイ	+4
KBL	カブール	+4.5
KHI	カラチ	+5
DEL	デリー	+5.5
DAC	ダッカ	+6
RGN	ヤンゴン	+6.5
BKK	バンコク	+7
HKG	香港	+8
SEL	ソウル	+9
TYO	東京	+9
ADL	アデレード	+9.5
SYD	シドニー	+10
NOU	ヌーメア	+11
WLG	ウェリントン	+12

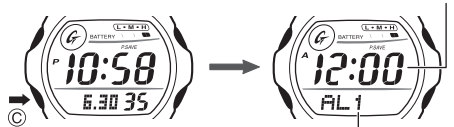
※この表は2003年６月現在作成のものです。
※時差は協定世界時（UTC）を基準としたものです。

アラーム・時報の使い方 Ⓒボタンを押して、アラームモードにします。

本機には、５本のアラームと時報があります。
- ●通常アラーム（アラーム１～アラーム４）
  設定した時刻になると、約10秒間の電子音が鳴ります。
- ●スヌーズアラーム（SNZ）
  セットした時刻になると、約10秒間の電子音が鳴り、５分おきに合計７回（約30分間）報音を繰り返します。なお、ボタンを押して音を止めても、再び鳴り出します。
- ●時報
  毎正時（00分のとき）に“ピッピッ”と電子音が鳴ります。

アラームモードに切り替えると、前回このモードで最後に見たアラーム番号のセット時刻を表示します。

<時刻モード>　アラーム時刻



Ⓒ (2回)　アラーム番号

■アラーム・時報を選ぶ

アラームモードでⒹボタンを押すごとに以下の順でアラームや時報が切り替わります。



■アラーム時刻のセット

例）アラーム２に午後３時30分をセット

1.セットしたいアラームを選ぶ

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに切り替わりますので、セットしたいアラーム番号または“SNZ”を表示させます。



アラーム番号　Ⓓ

2.セット状態にする

Ⓐ ボタンを約２秒間押します

➡「時」が点滅します。
※ アラームONマークが点灯し、自動的にアラームがONになります。



Ⓐ　Ⓑ　Ⓒ　Ⓓ　時

- Ⓐ ボタン
  ・セット状態／セット解除
- Ⓑ ボタン
  ・点滅箇所を戻す
- Ⓒ ボタン
  ・セット箇所の選択
- Ⓓ ボタン
  ・点滅箇所を進める

3.「時」をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに１つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻りますので午後３時を表示させます。
※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも押し続けると早送りができます。
※「時」のセットのとき午前(A)／午後(P)、または24時間制にご注意ください。
※ ホームタイムを24時間制にしているときは、アラーム時刻も24時間制で表示されます。



(戻る) Ⓑ　Ⓓ (進む)

4.「分」のセットに切り替える

Ⓒ ボタンを押します

➡「分」が点滅します。

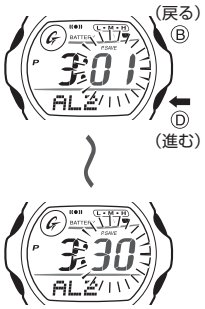


Ⓒ　分

5.「分」をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに１つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻りますので30分を表示させます。
※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも押し続けると早送りができます。



(戻る) Ⓑ　Ⓓ (進む)

6.セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。



Ⓐ

※点滅表示のまま２～３分間すると、自動的に点滅が止まります。

■アラーム・時報のON／OFF

1.ON／OFFしたいアラーム・時報を選ぶ

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに切り替わりますので、アラーム番号または“SNZ”を表示させます。

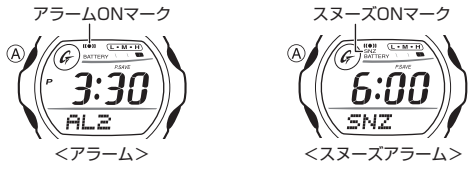


アラーム番号　Ⓓ

2.ON／OFFを切り替える

Ⓐ ボタンを押します

➡押すごとにONとOFFが切り替わります。



Ⓐ

時報ONマーク



Ⓐ
<時報>

●鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押します。
※スヌーズアラームは、約５分後に再び鳴り出します（スヌーズ中は“SNZ”が点滅します）。
※スヌーズアラーム機能中のときに以下の操作を行ないますと、スヌーズアラーム機能が中断されます。
- ・アラームモードでスヌーズアラームをOFFにしたとき。
- ・アラームモード（スヌーズアラーム）でセット状態にしたとき。
- ・時刻モードで時刻セット状態にしたとき。

●モニターアラーム

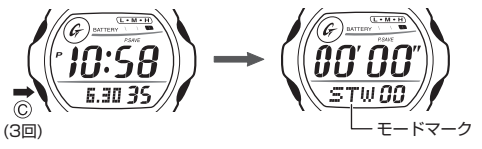
アラームモードでⒹ ボタンを押し続けると、押している間、アラーム音が鳴ります。

ストップウオッチの使い方　Ⓒボタンを押して、ストップウオッチモードにします。

ストップウオッチは1/100秒単位で59分59秒99（60分計）まで計測できます。以後、計測範囲を超えると、自動的に0に戻って計測し続けます。

■計測のしかた

<時刻モード>



約2秒後



Ⓐ ボタン
- ●スプリット／リセット
  - ・計測中に押すとスプリットタイムを表示
  - ・計測停止中に押すと計測をリセット

Ⓓ ボタン
- ●スタート／ストップ
  - ・押すごとに計測がスタート／ストップ

●通常計測

Ⓓ スタート → Ⓓ ストップ → Ⓐ リセット

計測終了後Ⓐボタンを押すと、計測値が0に戻ります（リセット）。

<積算計測>

ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずにⒹボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓓ スタート → Ⓐ スプリット計測 → Ⓐ スプリット解除 → Ⓓ ストップ → Ⓐ リセット

計測中にⒶボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続けるスプリット計測となります。

※スプリット計測中にモードを切り替えると、スプリットは解除されます。

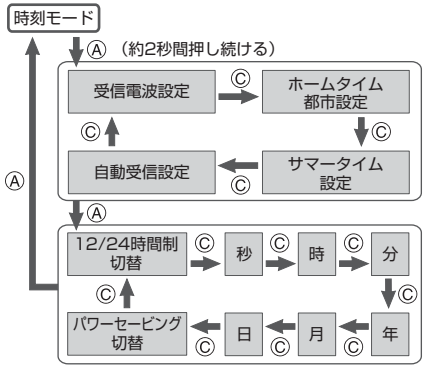
●1・2着同時計測

Ⓓ スタート → Ⓐ 1着ゴール（1着タイム表示） → Ⓓ 2着ゴール → Ⓐ 2着タイム表示 → Ⓐ リセット

時刻・カレンダーの合わせ方　時刻・カレンダー合わせは時刻モードで行ないます。

時刻・カレンダーは「自動受信の設定」をオンにしておくと、自動的に電波を受信して正しく修正されますので、通常は修正する必要はありません。電波受信ができないときなどは、ここで説明する操作にしたがって合わせてください。

■セット内容



※セット状態（表示の一部が点滅）のときにⒸボタンまたはⒶボタンを押すと、上記順に点滅箇所が移動します。



Ⓐ ボタン
- ・セット状態
- ・セットゾーン切替
- ・セット解除

Ⓒ ボタン
- ・セット箇所の選択

電波受信の設定、ホームタイム都市の設定、サマータイムの設定、自動受信の設定については、「■電波受信に関する設定」をご覧ください。

■合わせ方

1.セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約2秒間押します

➡ピッと電子音が鳴り、受信電波の設定になります。

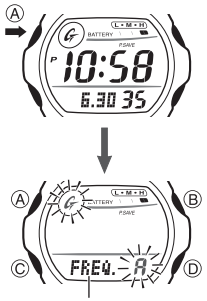
Ⓐ ボタン
- ・セット状態
- ・セットゾーン切替
- ・セット解除

Ⓑ ボタン
- ・点滅箇所を戻す

Ⓒ ボタン
- ・設定箇所の選択

Ⓓ ボタン
- ・点滅箇所を進める

<時刻モード>



2.セットゾーンを切り替える

Ⓐ ボタンを押します

➡「12/24時間制切替」となり、セット内容が点滅します。

例）12H（12時間制）

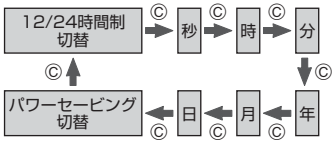


3.セット桁を送る

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すと点滅箇所が下図の順に移動しますので、合わせたい箇所を点滅させます。



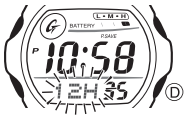


4.セットする

a．12/24時間制切り替えのときは

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに12時間制表示（12H）と24時間制表示（24H）が切り替わります。



b．秒合わせのときは

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すと「00秒」からスタートします。

※秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは1分繰り上がって「00秒」になります。



00秒になる

c．時・分・年・月・日合わせのときは

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。



※Ⓓ・Ⓑ ボタンとも押し続けると早送りができます。

※「時」のセットのとき、午前（A）／午後（P）および24時間制にご注意ください。

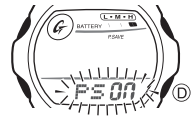
※「年月日」は西暦で2000年1月1日～2099年12月31日までセットできます。

※曜日は年月日を合わせると自動的にセットされます。

d．パワーセービング切り替えのときは

Ⓓ ボタンを押します

➡ⒹボタンをおすごとにOn（PS On）とOFF（PS OF）が切り替わります。



Ⓒ ボタンでセットしたい箇所を点滅させ、Ⓓ または Ⓑ ボタンで表示をセットする操作を繰り返し行ないます。

5.セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡ 点滅が止まります。



※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

★カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。